

ほろいずみ ニュース No. 167

発行: えりも町郷土資料館ほろいずみ・水産の館 発行日: 令和4年4月1日
〒058-0203 北海道幌泉郡えりも町字新浜207番地
TEL: 01466-2-2410 E-mail: erimomus@cocoa.ocn.ne.jp
<http://www.town.erimo.lg.jp/horoizumi/>

◇ 両生類が活動を始めました ◇

町内の雪解け水が流れてできた水溜りでは、「エゾアカガエル」や「エゾサンショウウオ」が冬眠から覚め、産卵の時期を迎えています。

「エゾアカガエル」の繁殖期は4～5月で、ひとつの産卵場所に1～2週間で集中して産卵をします。

1匹のメスは700～1,100個の卵を産みます。

卵は、2週間ほどで孵化し、更に2か月ほどで変態し上陸をします。



写真: 水溜りに複数浮かぶ「エゾアカガエル」の卵



写真: 資料館の中庭に生息している「エゾアカガエル」

「エゾサンショウウオ」は、4月上旬から5月下旬頃までに産卵します。

1匹のメスが1度に産卵するのは卵囊(らんのお)2本(1対)、卵囊1本の中には卵が20～80個入っています。

卵は、30～40日で孵化(ふか)。幼生は40～50日で、地域や環境により変態するまでの期間はずれることが多く、秋までには幼体となります。

水温の低い場所では年内に上陸をせず、幼生のまま越冬することもあります。

※変態＝両生類では、幼生はオタマジャクシ型をしている。鰓(えら)呼吸をし、水中生活を行うが、成体は肺呼吸をし、手足が生え、陸上移動が可能な形態となることを言います。



写真左: 「エゾサンショウウオ」は、水中に落ちた木や枝に卵囊を産みつけます。



写真右: 資料館で飼育している「エゾサンショウウオ」

町指定文化財「蝦夷一覽」

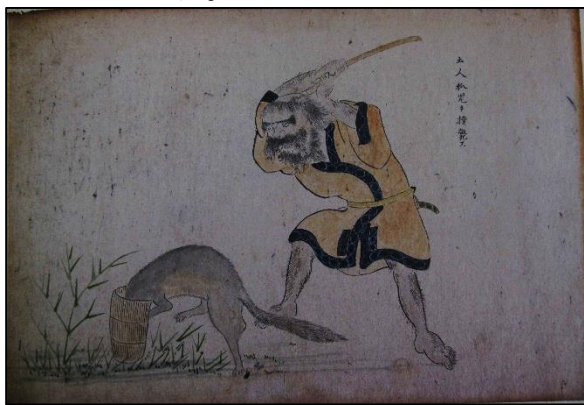
「蝦夷一覽」は、町指定文化財第1号(昭和59年(1984年)1月27日)に指定されています。

アイヌ民族のアッシ織りや狩猟風景を描いた風俗画で、作者・作製年については不明です。

「蝦夷一覽」のような絵画は江戸時代末期、特に安政期から明治初期にかけて作製されたものが多く、転写されたものです。

当時の代表的な絵師：村上 島之丞(むらかみ しまのじょう)、別名：秦櫛丸(はた おくまる)、小玉 貞良(こだま ていりょう)、号：龍 円斎(りゅう えんさい)の作品から転写したものであると考えられています。

また、他の絵図にない画もあり、アイヌ民族を理解するうえで、最小限必要な知識を得るために作られたと考えられています。



写真：蝦夷一覽の1枚



「蝦夷一覽」について詳しくはこちらをご覧ください。郷土資料館ホームページへリンクしています。

郷土資料の寄贈がありました

町民の方より、「草履・雪下駄」や「エゾリスのはく製」など14点の寄贈を受けました。



写真上：「草履・雪下駄」
写真中：「エゾリスのはく製」
写真下：「湯のみ」

4/1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
○	○	○	○	休館日	○	○	○	○	○	○	休館日	○	○	○	○	○

18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	5/1	2	3	4
月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水
○	休館日	○	○	○	○	○	○	休館日	○	○	○	○	○	○	○	○

4月～5月の
開館カレンダー